

令和4年度第1回高知県人権教育推進協議会議事概要

日 時 令和5年2月17日(金) 9時30分～12時00分

場 所 高知会館 3階 飛鳥

1 開会

- ◆教育長挨拶
- ◆委員紹介

2 内容

- (1) 会長、副会長選出
- (2) 高知県の人権教育の推進について
- (3) 第12期高知県人権教育推進協議会議事等について
- (4) 報告・協議

- ・「高知県人権教育推進プラン(令和2年改定版)」に関わる各課事業の進捗状況について
- ・高知県の人権教育の取組の改善点や方向性について

(以下記号：協議会委員○、事務局●)

- 会長、副会長の選出
- (2) 高知県の人権教育の推進について、(3) 第12期高知県人権教育推進協議会議事等について、事務局より説明をお願いします。
- (事務局説明)

- | |
|------------------------------|
| (2) 高知県の人権教育の推進について |
| (3) 第12期高知県人権教育推進協議会議事等について |
| 高知県人権教育推進プラン(令和2年改定版) |
| 資料2 高知県人権教育推進協議会設置規程 |
| 資料3 第11期高知県人権教育推進協議会 提言 |
| 資料4 第12期高知県人権教育推進協議会 議事等について |

- 事務局から、高知県の人権教育の推進についてと第12期高知県人権教育推進協議会議事等について、説明をいただいた。
続いて、(4) 報告・協議に入る。まず、委員それぞれの立場や、日頃取り組まれていることから人権課題や人権教育に係わる現状や考えておられること等をふまえ自己紹介をしていただきたい。
- 保育者は、子どもの最善の利益を一番に考えて保育をしている。保育士をめざす学生に対し、一人一人を大事にし、子どものどんな言動も肯定的に受け止めることや子どもに向ける温かいまなざし、保育者自身が子どものモデルだということを教えていきたい。学生自身が、どんな意見を言っても良い、周りから認められることを体験してほしいと思い授業をしている。
現在の社会は、子どもの権利条約にもある、子どもの意見の尊重が守られていない、保障されていない状況があるのではないかと、日々感じながら、取り組んでいる。
- 小中学校における人権教育は、各学校において作成している年間指導計画に沿って実践し

ている。その中で、定期的に子どもに学校生活についてアンケートをとり、状況を把握している。いじめの際には、早急に察知し対応できるよう、「『高知家』いじめ予防等プログラム」を活用した取組を年間指導計画に位置付け、校内教職員研修等も行っている。

子どものSOSを早くキャッチするため、1人1台タブレットのきもちメーターの活用も行っているが、何か問題が発生した時の対処的な生徒指導だけでなく、普段から予防的な取組を積極的に行っていく学校体制づくりや学校経営が、今後も非常に重要であると考えている。

- 高校の人権学習は、着実に充実してきたと思う。個別の人権課題を3年間で計画的に学習することや、教員が人権というテーマで校内研修を実施すること、また外部講師を招聘し、子どもと一緒に教員も学ぶ取組も着実に進んでいる。また、教科横断的に日常生活と人権の視点を関連付けて考えることも進んでいると思う。

子どもをしっかり尊重していく文化や子ども自身の中にある答えを大切にすることが、結果的に教員の人権意識や人権感覚を育むことにもなる。教員が人権感覚・意識を持つことが、子どもの人権感覚や自己肯定感、自尊感情を育むことにつながると考える。

- 特別支援学校では、小学校や中学校、高等学校との交流および共同学習の取組を進めている。コロナ禍の状況の中で、対面での交流は難しくなっており、ICT機器を活用したりリモート交流が積極的に行われている。ICT機器を効果的に使うことにより、子ども同士の関わりとつながりができたことが、ここ数年の大きな変様である。

今後のウィズコロナ時代を考えた時、対面での交流とリモート交流を効果的にミックスして行うことによって、地域の学校と特別支援学校の子どものつながる機会をより増やしていくことが大事である。

子どもや保護者、地域への向き合い方や教職員間の人間関係において、優しく丁寧にしっかりとということを基本姿勢として意識し取り組んでいる。

- 私立小中高等学校人権教育研究協議会では、広報紙の作成や個別の人権課題に対して講師を招聘しての講演、年1回当番制での公開授業の取組等を行っている。また、各学校の先生方も積極的に研修に参加し、一人一人の生徒を大事にしようという動きがとても強くなっている。

つらい目に遭っても、そこで踏ん張れる力や困った時に助けてくださいと言える力、どんなことがあっても自分を信じることができる力を生徒に育むことができる学校を求めて、教職員と話し合いながら取組を進めている。

- 互いに集団の中で生活していく上で、互いの人権をどう認めるかという視点を政策的なレベルにおいて、どのように形成し実施していくのかを勉強している。

個としての人権をどこまでも個別化して、最適化して認めていく一方で、社会の中で互いを知り、互いを尊重しながら生きていかないといけないという一面もある。全体としての部分を見る視点と個別を見る視点をどのあたりで調整することが必要なのかということ日々、悩んでいる。

この推進協議会を通して、高知県にとって必要な人権教育の推進に関して、何か新しいものができればと考えている。

- PTAでは各地区で教育行政研修会を開催し、いじめ問題の解決に向けて、まずPTAができることを考え、課題意識を共有してきた。また、SNSなどの利用について、生活習慣が乱れ、遅寝、遅起き、朝ごはんを食べれない状況となり、不登校になっているということを知っている。この不登校に対する事案が本当に深刻だという認識を持っている。

コロナ禍から3年、講演会に参加できるようになってきたが、講演に出てきてくれない方へ情報を届けていきたいので、小中学校のPTA連合会としても、その手立て等を考えたい。

- 現在、不登校、いじめ問題等、非常に多様な人権課題に直面をするようになってきている。学校も一生懸命取り組んでいるが、学校だけではなかなか改善に向かえないところが大きな悩みである。

学校や家庭において、失敗させない教育、正解を当てる教育からの脱却ということが、大切であり、今回の学習指導要領の大きな質的な転換につながっている。今後も、脱却を現実のものとするために、辛抱強く、日々同じことを繰り返し、長としてメッセージを伝えていく責任があると強く感じている。

- 私の組織は戦後、被差別部落の子どもたちを中心に、厳しい環境にある、なかなか学校に行けなかった子どもたちの教育権を守る取組から、1958年に誕生した。

2016年と2019年の人権教育推進プランの改定に関わらせていただいた。これまで全ての人の人権が尊重され、安心して生活できる社会を実現するため、推進協議会委員として、発言してきたが、高知県の不登校発生率は増加している状況である。自分自身、何をやってきたんだという自問自答や反省をしているところである。

これから推進協議会委員として、子どもの笑顔に、最善につながるよう頑張っていきたいと考えている。

- 主に犯罪被害者の方々に関わってきたが、県民に身近な11の人権課題を見てみると、女性、子どもや高齢者、障害者、外国人の方々が窓口を訪れ、対応することが多い。

子どもが、被害者になるケースが多くあり、私自身、同様のケースや事件に対応することが多く、学校の先生方と協議させていただくこともある。犯罪被害にあった子どもにどのような配慮が必要か、学校としてどのような対応をすべきかを適切に連携できる関係性を築いていきたい。

命の大切さを学ぶ教室において、子どもに対し、「あなたは、本当にかげがえのない存在である」ということを伝えることで、被害に遭う、また加害者になる子どもが増えないようにしていきたい。

- 主としてHIVの患者さんのフォローを行っている。

高校の外部講師として、性感染症と妊娠、人工中絶、LGBTとジェンダーについて、生徒に話をしている。生徒の感想文を見ると、悩んでいる生徒は多い。生徒に対して、周りの人の理解がないと本人は自分らしく生活ができないと感じる。

また、社会に出てからも、育ってきた背景にとっても左右されていると感じる。様々な背景の中から、薬物、アルコール等の依存症になる方や自分が価値のない人間だと思い、自殺企図や自殺未遂をしてしまう方々にとって人権はとても大事である。学生に対する講話でも、人権の大切さについて理解が深まるようにと思いを話している。

- これから10年後には、人間に対する様々なサービスを受ける時に、相手はほぼAIになる。人間と人間の間を生じる人権の問題は、AIが加害者になるという状況が、すでに頻繁に起こっており、AIプログラムの作成者の意図に関わらず、結果として人権侵害が生まれる。現在、人権の議論ではこのような事案に対する、考えがまだ及んでいないと思う。

また、メタバースの中で生じる人権問題も、リアルな空間とは違う状況が生じてくるだろう。今から議論や準備をしておかないと、発生してからでは遅いと感じる。

- ソーシャルワーカーは人間尊重ということを柱に掲げている専門職である。ソーシャルワーカーは支援のプロセスの中で、今この子どもの奪われている権利は何かという視点を常に

意識している。私たちの活動を通して、関係する方々に子どもの人権について意識をしていただきたい。その意味で、スクールソーシャルワーカーの活動は、子どもを取り巻く環境に人権の視点を置いていく仕事だと思ふ。またその支援のプロセス自体が人権教育であると感じる。

- 県内の在住外国人の状況は、令和4年6月現在5,038人と5,000人を超えており、過去最多の数字となっている。県の人口割合で見ると0.7%程度なので、1%に満たない、マイノリティーの対象者になるが、母語を日本語としない、また英語を話さない方も県内に大変多くなっている。

まだ、大きな社会問題にはなっていないかもしれないが、外国にルーツをもつ子ども、その家族の支援体制も求められる。関係団体等と協力しながら支援していきたい。

- 続いて、高知人権教育推進プランに関わる各課事業の進捗状況について、各課より説明をいただきたい。

- (事務局説明)

(4) 報告・協議

- ・「高知県人権教育推進プラン（令和2年改定版）」に関わる各課事業の進捗状況について

資料5 「高知県人権教育推進プラン（令和2年改定版）」に関わる各課事業の令和4年度（12月末）進捗状況

- 続いて、協議事項「高知県の人権教育の取組の改善点や方向性について」に移る。

各課の取組に関してのご質問や、次回の人権教育推進プランの改定を見据えての改善点、今後新たに考えていくべき方向性についてご意見をいただきたい。

なお、本日いただいたご意見は、令和5年度に実施予定の人権教育に関するアンケートの質問項目にも反映して次期プランをつくる際の資料の1つとする予定である。

- 道徳推進リーダーの研修後、各学校でどのような活動をして、その結果、どのような成果が上がったか、把握しているかを聞きたい。

- 道徳推進教師の研修によって、子どもや授業の変容についての資料は、本日持参していないが、毎年、2月に学校アンケートをとっており、そのアンケートの中で、来年度の道徳教育計画や各家庭に配布している「家庭で取り組む 高知の道徳」という資料集の活用状況、地域ぐるみの道徳教育等について調査を行っている。その調査結果を学校に返している。

- コミュニティ・スクールの学校運営協議会の方々に対する人権感覚や人権意識等に関する学習の機会をもつ予定があるか。

- 学校に入っただけで地域の方々にも、人権感覚や人権課題に対する知識、技能を持つことを期待したい。

地域住民に対しての人権啓発や人権教育について、学習する機会などを準備・計画しているかという質問だと思うが。

- 年に1回、コミュニティ・スクールの研修会を行っている。地域でどのように子どもたちを育てるのか、育てているのかということについて、他県の教育委員会や保護者から実践発表をしていただき、子どもの人権を含めた成長を支える方法や成果等について共有をした。来年度も同様に、実施したいと考えている。

- 地域や保護者を巻き込んだ人権教育はとても重要であり、様々な場所や機会を通して、人権啓発や人権学習を行っている。

例えば、昨年度、作成した「情報モラル教育実践ハンドブック」の中に、保護者や地域における情報モラル教育の内容も記載しており、各学校において活用していただいている。また、PTA行政研修会や各地区のPTA等において、いじめやインターネットの問題についての学習会を、放課後学習支援員を対象に不登校についての学習会を行う等、学校に入っている全ての方々に協力をいただき、様々な取組を実施しているが、まだ十分ではないのが現状である。

- スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを対象とする研修は、その職種の方に対する研修か、その活用に関する教員を対象とした研修なのか。
- スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの研修は、その職種を対象にした研修である。スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと連携し取組を進めるために各学校に配置しているコーディネーターを対象とした研修も年1回、実施している。
また、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを学校の中でしっかり生かしていくための教職員向けの校内研修も実施している。
- スクールカウンセラーの存在を知らない高校生もいる。各公立高校にスクールカウンセラーが配置されていることを聞いているので、教員とスクールカウンセラーが連携できるプランがあれば良いと思い、質問した。
- スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを学校の中でどのように位置付け、情報提供し、連携して取り組んでいくのかということとはなかなか難しいと感じている。しっかり連携して取り組むためには、学校側のサポートが必要であるし、校長先生に対する研修会や情報提供もいると思うが、その辺りはどうか伺いたい。
- 近隣の学校の多くは、校内支援会を定期的実施しており、校内で共有しておくべき情報交換をする場として、スクールカウンセラーにも入っていただいている。校内支援会をスクールカウンセラーが学校に来る日に開催するなど、連携の仕方については、学校において様々であるが、校内支援会は、非常に有効な手段であると感じている。
- 校内支援会は個別の案件に関して、スクールカウンセラーの専門的知見を入れながら行うことが効果的である。厳しい環境の子どもをスクールソーシャルワーカーにつなぎ、福祉の視点を入れながら支援していくことは、学校の中では、まだ難しいと感じている。その点について、教育委員会の支援や情報提供が必要である。
- スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの多くの方が、複数校、掛け持ちで勤務しており、とても多忙の中で、もっと子どもと関わりたいが時間が取れないという話を聞いている。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーが、もう少し子どもと丁寧に関われるように、人員を増やしていただけたらと思う。
- 今、保育士、保育者の子どもに対する暴言や虐待を伴うような保育園など、マスコミで報道されている。そのような事案を幼保支援課や教育センターの取組や研修の中で、生かしていることがあれば聞きたい。
- 来年度、教育センターが実施している各採用ステージの人権教育研修の中で、不適切な保育について、重点的に盛り込むことができないか考えている。
- 園内研修支援で保育所等に訪問しているが、保育の中で人権感覚が鈍ってるなど感じる場面がある。

保育は、子どもの最善の利益や子どもにとってどうかということ、一番に考えなくてはいけませんが、自分たちの効率の良さを優先しているところもあり、少しずれていると感じる。保育の中で、そういう部分を大事にしてほしいし、学生にも学ばせたい、学んでほしいと感じ

じる。

- 見過ごされがちで小さなことや当たり前だと思っていることを繰り返していく中で、不適切な保育につながることもある。来年度、国の手引きやチェックリストも活用して研修内容を検討したい。

保育士が余裕を持つためにどのような支援ができるかについては、財政的な支援や国の制度についての意見等も視野に入れて、取り組まないといけないと思っている。

- 第11期の推進協議会でも出された意見であるが、子どもの人権が守られるためには、先生の人権が守られてる状況がないといけない。先生に余裕や自己の活動をリフレクションできるゆとりのある環境が整っていれば、先生は自然と1日のふり返りや環境整備等について考えられるのではないか。先生が追い詰められず、自身の人権が守られることで、子どもの人権が守られる。その意味では、とても重層的で多層的な問題だと考えておいた方が良く改めて思った。
- 今後、学校に関わってない地域の方に、人権やお互いを尊重し合うことへの理解をどのように広げていくのか、もっと考える必要がある。インターネット等を活用した効果的な情報の発信の仕方を考えていけたらと思う。
- 多忙で学校に関われなかった方にインターネット環境を整備することで関わっていただける。一方で、ネット環境がない方々もいる。両方にアプローチできる方法を考えることが重要である。
- 委員から出された地域の学校に対する言葉が、今の高知県の人権教育の置かれている状況かなと感じる。この状況をどう乗り越えていくのか、みんなが輝くために、どうあるべきなのか、これからの推進協議会で互いに意見を交流すれば、実りあるものになると感じる。
- 本日、委員の皆さまからいただいた意見をまとめる。

1点目として、人権教育や人権の取組を進めていくためには、先生だけでなく大人全般や社会全体の人権意識を変化させることが重要である。

先生の人権が守られているということが、先生が安心して子どもたちの人権を守れることにつながる。先生や保護者、一般の大人の人権が守られる状況をつくりだすことを課題として捉える必要がある。

2点目として、人権尊重の社会をつくるためには、失敗を許容できる社会の形成が必要である。人権課題が次々に生まれ、社会の状況によって捉え方が変わる中で、正解を求めない、多様な見方から相互に尊重し合う状態をつくり出す社会をつくるための施策について、議論していくことが必要である。

3点目として、子どもの人権が侵害された時、学校だけでなく、警察等が持っている情報や知識、専門的知見が必要な場合もあり、スクールソーシャルワーカー等の子どもや大人の周りにいる人たちが総合的に対処することが重要である。相互に状況を伝え合い、勉強し合い、解決し合う場の形成が重要である。

4点目として、AIやメタバース等の新しい社会状況において、人権侵害が起こる可能性がある。AIが人権侵害を行った場合、子どもや大人をどう守るのか、または外国籍の子どもやその家族の支援が必要か、新しい領域として、検討していく必要がある。

県民全ての方をどう巻き込んで、人権が尊重される高知県をつくり出していくのが課題である。そのための施策やプランを今後、本会において考えていきたい。